

郷土読本「わたしたちの 桜井市」

令和 7 年 3 月 31 日 十七訂版発行

社会科の副読本として郷土読本が作成されています

第 4 章では「桜井市のようなすのうつりかわり」を学びます。

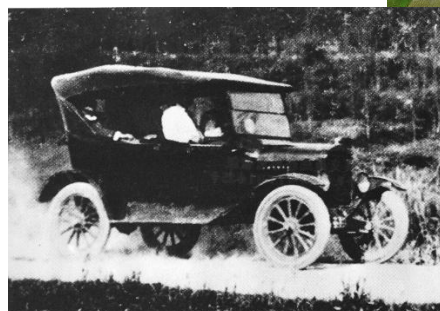
桜井駅ができたころの様子

明治 26 年（1893）に国鉄（JR）の桜井駅が開業し、明治 42 年（1909）に大阪電気軌道（今の近鉄）が開業しました。

駅ができたことで、鉄道を使って、遠くまで木材を運ぶことができるようになりました。それによって、吉野や宇陀の木材が、桜井駅に集まるようになりました。そして、桜井駅のまわりに木材に関係のある工場が増えました。

大正 6 年（1917）
奈良県で初めてバスが桜井～宇陀で通りました。

写真提供：奈良交通



桜井市ができたころの様子

昭和 30 年（1955）に大三輪町と合併して桜井市となりました。

桜井市ができたころは、バスが町の中を走っていましたが、今のように舗装された道ではなく、土の道でしたのでバスが通るとほこりがまっけて大変でした。桜井駅前には映画館があって、父親に連れて行ってもらって映画を見ました。また、休みの日になると商店街は人であふれかえるくらいにぎわっていました。



昭和 31 年（1956）桜井駅の周りの様子
写真提供：奈良県立図書情報館



昭和 31 年（1956）桜井駅の様子
写真提供：奈良県立図書情報館